



平成29年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年5月12日

上場会社名 伊豆シャボテンリゾート株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6819 URL http://www.izu-sr.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)北本 幸寛  
 問合せ先責任者 (役職名)経営企画室室長 (氏名)桑原 亮介 (TEL)03(5464)2380  
 定時株主総会開催予定日 平成29年6月26日 配当支払開始予定日 —  
 有価証券報告書提出予定日 平成29年6月27日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期の連結業績(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期	2,964	6.3	409	33.7	444	686.5	478	—
28年3月期	2,789	10.0	305	490.8	56	△27.4	26	△33.7
(注) 包括利益	29年3月期		481百万円 (-%)		28年3月期		20百万円 (△50.6%)	

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
29年3月期	16.80	—	45.0	23.7	13.8
28年3月期	0.93	—	3.3	3.9	11.0

(参考) 持分法投資損益 29年3月期 —百万円 28年3月期 —百万円

平成29年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益および包括利益の対前期増減率は1,000%を超えるため「—」と記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
29年3月期	2,106	—	1,303	—	61.9	45.77	—	
28年3月期	1,642	—	829	—	50.1	28.87	—	
(参考) 自己資本	29年3月期		1,303百万円		28年3月期		822百万円	

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
29年3月期	540	△290	△4	586
28年3月期	375	△302	△1	340

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
28年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00	0	—	—
29年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00	0	—	—
30年3月期(予想)	—	0 00	—	0 00	0 00	—	—	—

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,680	9.7	300	21.6	300	17.7	260	△9.5	9.13
通期	3,260	10.0	460	12.5	460	3.4	410	△14.3	14.40

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期	28,496,537株	28年3月期	28,496,537株
② 期末自己株式数	29年3月期	20,893株	28年3月期	20,393株
③ 期中平均株式数	29年3月期	28,475,981株	28年3月期	28,476,423株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成29年3月期の個別業績（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期	166	5.4	13	△2.1	△44	—	26	76.2
28年3月期	158	△21.7	13	—	△43	—	15	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期	0.95	—
28年3月期	0.54	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
29年3月期	559		537		96.0	18.88		
28年3月期	542		514		93.6	17.83		

(参考) 自己資本 29年3月期 537百万円 28年3月期 507百万円

※ 決算短信は監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4 1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(会計方針の変更) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	18
(重要な後発事象) .....	18

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用状況の改善が続き、緩やかな景気回復が続きました。英国のEU離脱問題や、アメリカ大統領選挙の影響もありましたが、日本へ訪れる外国人観光客数は史上最多を更新しております。いっぽう、個人消費については前年同月を下回る動きが続くなど、先行きは不透明感が残る状況となっております。

このような状況の中で、当社が展開するレジャー事業では、経営理念である「ステークホルダーと共に」及びブランドスローガンである「ご来園者の笑顔のために」の元に、長きにわたって愛される施設作りを目指すべく継続して新たなアトラクションの設営など、ご来園者様の満足感を高める諸策を次々に打ち出しております。エンターテイメント事業では、継続してCM制作受注及びプロモーション受託に努めております。投資事業においても引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。リスクマネジメントの観点から事業ポートフォリオの再構築についても適宜検討しております。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高29億64百万円（前期比6.3%増）、営業利益4億9百万円（前期比33.7%増）、経常利益4億44百万円（前期比686.5%増）、当期純利益4億78百万円（前期比1,706.9%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (レジャー事業)

レジャー事業では、以下の売上向上施策を行いました。

伊豆シャボテン動物公園では、元祖カピバラの露天風呂が引き続き来場されるお客様にご好評いただいております。そして、毎年冬至前後に開催いたします「カピバラのゆず湯」が20周年を迎えることができ、多くのお客様に心待ちにして頂けるイベントとなりました。また、オグロマーモセットやショウガラゴといった新しい動物が仲間入りしております。さらに、インドクジャクやマーラ、ラマなどの赤ちゃんが誕生しており、動物の繁殖にも引き続き力を注いでおります。

伊豆ぐらんぱる公園では、LEDイルミネーション「グランイルミ」が2ndシーズンとし、リニューアルオープンいたしました。体験型イルミネーションと題し、LEDの球数を400万球に倍増させ、「ジップライン～Julie～」や、ロングスライダーなど、アトラクションを楽しみながら多くのお客様にご覧いただくことができました。また、宝探しアトラクション「GOLD RUSH～ソテッチー海賊団の秘宝を探せ！～」や、縦横無尽に回るリングに搭乗する「トルネードスピン」、話題の先端技術であるVRを利用した「バーチャルライドMAGICa!!（マジか!!）」などの新規アトラクションも続々導入いたしました。

以上の結果、レジャー事業では、売上高29億21百万円（前期比10.8%増）、営業利益3億13百万円（前期比16.8%増）となりました。

#### (エンターテイメント事業)

エンターテイメント事業では、CM制作による売上、プロモーション受託や当社が保有するコンテンツの二次使用による著作権収入がありました。

以上の結果、エンターテイメント事業では、売上高42百万円（前期比72.2%減）、営業損失18百万円（前連結会計年度は営業損失34百万円）となりました。

#### (投資事業)

投資事業による売上はありませんでした。

#### (その他事業)

その他事業による売上はありませんでした。

## (2) 当期の財政状態の概況

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3億54百万円増加し、8億27百万円となりました。これは主として、現金及び預金が2億56百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1億9百万円増加し、12億79百万円となりました。これは主として、建物及び構築物が89百万円増加したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて4億63百万円増加し、21億6百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1百万円増加し、3億69百万円となりました。これは主として、買掛金が12百万円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12百万円減少し、4億33百万円となりました。これは主として、その他が15百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて10百万円減少し、8億2百万円となりました。

### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて4億74百万円増加し、13億3百万円となりました。これは主として、当期純利益の計上等により利益剰余金が5億94百万円増加したこと等によります。

1株当たり純資産は、前連結会計年度末に比べて16円90銭増加し、45円77銭となりました。また自己資本比率は、前連結会計年度末の50.1%から61.9%となりました。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて2億45百万円増加し、5億86百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は、前連結会計年度より1億65百万円増加し、5億40百万円（前連結会計年度は3億75百万円の資金獲得）となりました。これは主として、税金等調整前当期純利益4億79百万円の獲得によります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、支出した資金は、前連結会計年度より12百万円減少し、2億90百万円（前連結会計年度は3億2百万円の資金使用）となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出2億56百万円によります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、支出した資金は、前連結会計年度より2百万円増加し、4百万円（前連結会計年度は1百万円の資金使用）となりました。

#### (4) 今後の見通し

当社グループは、中核事業でありますレジャー事業の更なる収益力の強化、各公園における安全・安心確保や、コンプライアンスの徹底など一層の内部管理体制の充実を図ってまいります。

レジャー事業に関しては、伊豆ぐらんぱる公園における「グランイルミ」が二年目を迎え、伊豆半島における冬の夜間イベントとして定着いたしました。テレビ番組への露出も増えており、また、多くの団体のお客様にも来ていただける等の認知度の向上もあり、来客者様の増加及び、更なる収益の拡大を図れることとなりました。このような施策を引き続き行うことによって、ステークホルダーの皆様の満足度を向上させるべく継続的な改革・改善に取り組めます。

伊豆シャボテン公園グループでは、「当社施設訪問を目的とした人々が”日本中から伊豆に集まって下さる”」状況作りを目指し、引き続き各公園施設の全般的な魅力向上（魅力的な運営施設の新設、イベントの拡充、物販の拡充、接客などサービスレベルの向上、効果的な宣伝広告）を重点施策として実施してまいります。

次期（平成30年3月期）の連結業績見通しにつきましては、売上高32億60百万円、営業利益4億60百万円、経常利益4億60百万円、当期純利益4億10百万円を見込んでおります。なお、個別業績予想につきましては、投資情報としての重要性が大きいと判断し、記載を省略しております。

上記における業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的である判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があるほか、予想自体についても今後変更となる可能性があります。

#### (5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループの利害関係者の多くは、国内の株主、債権者、取引先等であり、海外からの資金調達の実現性が乏しいため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

なお、IFRSの適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	340,953	597,557
売掛金	48,013	66,562
未収入金	6,131	2,497
商品等	15,652	18,926
繰延税金資産	50,642	101,458
その他	11,606	40,025
流動資産合計	473,000	827,027
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,030,274	1,193,678
減価償却累計額	△339,578	△413,551
建物及び構築物(純額)	690,695	780,127
土地	269,655	269,655
その他	394,525	450,046
減価償却累計額	△237,003	△278,690
その他(純額)	157,522	171,355
有形固定資産合計	1,117,873	1,221,138
無形固定資産		
ソフトウェア	10,231	6,877
その他	-	702
無形固定資産合計	10,231	7,579
投資その他の資産		
投資有価証券	8,128	10,900
長期化営業債権	13,024	12,156
破産更生債権等	754	754
その他	33,200	39,671
貸倒引当金	△13,778	△12,911
投資その他の資産合計	41,328	50,572
固定資産合計	1,169,434	1,279,289
資産合計	1,642,434	2,106,316

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	38,371	51,003
未払金	213,710	179,065
前受金	42	4,340
預り金	19,120	10,614
未払法人税等	32,966	41,127
賞与引当金	16,814	19,268
その他	46,904	64,292
流動負債合計	367,931	369,712
固定負債		
退職給付に係る負債	128,924	131,773
偶発損失引当金	272,564	272,564
その他	43,938	28,795
固定負債合計	445,427	433,133
負債合計	813,358	802,846
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	455,091	100,000
資本剰余金	186,500	425,462
利益剰余金	198,388	792,936
自己株式	△11,918	△11,886
株主資本合計	828,062	1,306,512
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,813	△3,041
その他の包括利益累計額合計	△5,813	△3,041
新株予約権	6,827	-
純資産合計	829,076	1,303,470
負債純資産合計	1,642,434	2,106,316



## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	2,789,617	2,964,260
売上原価	1,065,500	1,084,677
売上総利益	1,724,117	1,879,582
販売費及び一般管理費	1,418,302	1,470,576
営業利益	305,815	409,005
営業外収益		
受取利息	96	4
受取賃貸料	17,407	25,209
償却債権取立益	1,540	5,390
その他	4,506	5,209
営業外収益合計	23,551	35,813
営業外費用		
支払利息	163	85
貸倒引当金繰入額	22	-
偶発損失引当金繰入額	272,564	-
その他	76	60
営業外費用合計	272,827	146
経常利益	56,539	444,672
特別利益		
固定資産売却益	1,488	4,085
新株予約権戻入益	-	7,586
債務免除益	1	0
受取保険金	6,115	23,643
特別利益合計	7,604	35,316
特別損失		
投資有価証券評価損	4,571	-
固定資産除却損	6,646	0
減損損失	976	-
和解金	20,000	-
特別損失合計	32,195	0
税金等調整前当期純利益	31,948	479,989
法人税、住民税及び事業税	30,502	52,315
法人税等調整額	△25,035	△50,816
法人税等合計	5,467	1,499
当期純利益	26,481	478,489
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	26,481	478,489

## 連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益	26,481	478,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,456	2,771
その他の包括利益合計	△6,456	2,771
包括利益	20,025	481,261
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	20,025	481,261
非支配株主に係る包括利益	-	-

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	455,091	186,500	172,055	△12,016	801,629
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			26,481		26,481
自己株式の処分			△147	185	38
自己株式の取得				△87	△87
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			26,333	98	26,432
当期末残高	455,091	186,500	198,388	△11,918	828,062

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	642	642	—	802,272
当期変動額				
親会社株主に帰属する当期純利益				26,481
自己株式の処分				38
自己株式の取得				△87
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△6,456	△6,456	6,827	371
当期変動額合計	△6,456	△6,456	6,827	26,803
当期末残高	△5,813	△5,813	6,827	829,076

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	455,091	186,500	198,388	△11,918	828,062
当期変動額					
資本金の取崩	△355,091	355,091			—
その他資本剰余金から その他利益剰余金への振替		△116,057	116,057		—
親会社株主に帰属する 当期純利益			478,489		478,489
自己株式の処分		△71		81	9
自己株式の取得				△49	△49
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△355,091	238,962	594,547	32	478,450
当期末残高	100,000	425,462	792,936	△11,886	1,306,512

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△5,813	△5,813	6,827	829,076
当期変動額				
資本金の取崩				—
その他資本剰余金から その他利益剰余金への振替				—
親会社株主に帰属する 当期純利益				478,489
自己株式の処分				9
自己株式の取得				△49
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	2,771	2,771	△6,827	△4,055
当期変動額合計	2,771	2,771	△6,827	474,394
当期末残高	△3,041	△3,041	—	1,303,470

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	31,948	479,989
減価償却費	87,707	121,206
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	22	△867
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	4,194	2,848
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△12	2,454
受取利息及び受取配当金	△96	△4
支払利息	163	85
為替差損益 (△は益)	76	60
減損損失	976	-
株式報酬費用	6,827	758
投資有価証券評価損益 (△は益)	4,571	-
償却債権取立益	△1,540	△5,390
債務免除益	△1	△0
固定資産除却損	6,646	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△24,562	△11,983
商品等の増減額 (△は増加)	3,576	△3,273
仕入債務の増減額 (△は減少)	△29,009	12,573
前渡金の増減額 (△は増加)	625	△632
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△62,338	△15,766
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△11,765	16,414
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	90,447	△5,148
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	△29	867
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	2,912	-
未払法人税等の増減額 (△減少額)	△2,373	△4,743
和解金	20,000	-
偶発損失引当金の増減額 (△は減少)	272,564	-
新株予約権戻入益	-	△7,586
受取保険金	△6,115	△23,643
その他	5,912	△2,713
小計	401,328	555,503
利息及び配当金の受取額	428	4
利息の支払額	△537	△85
法人税等の支払額	△12,083	△39,814
法人税等の還付額	-	1,279
和解金の支払額	△20,000	-
保険金の受取額	6,115	23,643
営業活動によるキャッシュ・フロー	375,251	540,531

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	△11,000
投資有価証券の売却による収入	40,200	-
有形固定資産の取得による支出	△338,577	△256,423
無形固定資産の取得による支出	△228	△702
貸付けによる支出	-	△2,200
貸付金の回収による収入	1,000	-
預り保証金の返還による支出	△4,000	△12,500
その他	△1,046	△7,807
投資活動によるキャッシュ・フロー	△302,652	△290,633
財務活動によるキャッシュ・フロー		
その他の支出	△1,271	△4,234
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,271	△4,234
現金及び現金同等物に係る換算差額	△76	△60
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	71,251	245,603
現金及び現金同等物の期首残高	269,702	340,953
現金及び現金同等物の期末残高	340,953	586,557

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当連結会計年度における連結財務諸表への影響額は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の分配の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、㈱伊豆シャボテン公園がテーマパーク等の運営を行っており、㈱FLACOCOがテレビCMの企画・制作を行っております。また、当社伊豆シャボテンリゾート㈱が子会社の指導・管理等をおこなっております。

従いまして、当社グループは、各事業会社の関連する事業を基礎とした事業別のセグメントから構成されており、レジャー事業、エンターテイメント事業及び投資事業を報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の測定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益をベースとした数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は、原価に適切な利益を加味して算定された額を基礎として決定しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結財務諸 表計上額
	レジャー事業	エンター テイメント 事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,636,680	152,648	—	2,789,328	289	2,789,617	—	2,789,617
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	278	2,931	121,200	124,409	36,000	160,409	△160,409	—
計	2,636,958	155,579	121,200	2,913,738	36,289	2,950,027	△160,409	2,789,617
セグメント利益 (△損失)	268,718	△34,934	54,335	288,120	17,694	305,815	—	305,815
セグメント資産	1,461,488	107,949	119,598	1,689,036	65,867	1,754,903	△112,468	1,642,434
セグメント負債	881,355	16,574	22	897,951	27,875	925,827	△112,468	813,358
その他の項目								
減価償却費	87,537	169	—	87,707	—	87,707	—	87,707
有形固定資産 及び 無形固定資産 の増加額	338,321	274	—	338,595	209	338,805	—	338,805

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。  
2. 売上高の調整額△160,409千円は、セグメント間取引消去であります。  
3. セグメント利益(△損失)は、当期の連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。



当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	レジャー事業	エンターテイメント事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,921,867	42,392	—	2,964,260	—	2,964,260	—	2,964,260
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,425	9,941	130,200	141,566	36,000	177,566	△177,566	—
計	2,923,292	52,333	130,200	3,105,826	36,000	3,141,826	△177,566	2,964,260
セグメント利益(△損失)	313,886	△18,109	92,930	388,707	20,298	409,005	—	409,005
セグメント資産	1,768,547	94,494	155,377	2,018,419	175,219	2,193,638	△87,321	2,106,316
セグメント負債	914,150	14,851	86	929,087	86	929,174	△126,327	802,846
その他の項目								
減価償却費	108,218	818	—	109,036	12,169	121,206	—	121,206
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	257,125	—	—	257,125	—	257,125	—	257,125

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。  
2. 売上高の調整額△177,566千円は、セグメント間取引消去であります。  
3. セグメント利益(△損失)は、当期の連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が連結計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が連結計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%を占める相手先がないため、記載はありません。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他	全社・消去	合計
	レジャー事業	エンター テイメント 事業	投資事業	計			
減損損失	—	766	—	766	209	—	976

「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	28.87円	45.77円
1株当たり当期純利益	0.93円	16.80円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	—円	—円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	26,481	478,489
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	26,481	478,489
普通株式の期中平均株式数(株)	28,476,423	28,475,981
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	平成27年6月22日 定時株主総会決議の新株予約権普通株式1,445,000株	—

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	829,076	1,303,470
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	6,827	—
(うち新株予約権(千円))	(6,827)	(—)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	822,248	1,303,470
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	28,476,144	28,475,644

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。